

DX 推進に関するトップメッセージ

実務執行統括責任者：代表取締役社長 松田 謙
更新日：2026 年 2 月 20 日

取り巻く環境変化と DX 推進の必要性

近年、地域産業を取り巻く環境は大きな転換点を迎えています。

原材料・燃料価格の変動、慢性的な人材不足、事業の多角化に伴う業務の複雑化、そしてお客様から求められる品質・対応力・持続性の高度化。これらは一時的な変化ではなく、今後も続く前提条件です。

訓子府機械工業は、農業機械をはじめ、食品加工、車両整備、燃料販売、上下水道・土木工事など、地域の暮らしと産業を幅広く支える事業を展開してきました。その一方で、紙中心の業務や属人的な判断、部門ごとに分断された情報管理といった課題が、成長や継承の足かせになりつつあることも認識しています。

こうした環境下において、DX は「効率化のための IT 導入」ではなく、**現場と事業を未来につなぐための経営基盤づくり**であると考え、全社的な取り組みとして推進します。

DX 推進にかける想いと背景

私たちの最大の強みは、現場にあります。長年の経験から培われた判断力、段取り、工夫、そして地域のお客様との信頼関係。これらは、訓子府機械工業の価値の源泉です。

しかし同時に、それらが「人の頭の中」に留まり、引き継ぎにくく、共有しにくい状態であることも事実です。

DX は、現場のやり方を否定するものではありません。むしろ、**現場で当たり前に行われている知恵や工夫を、誰もが活用できる形に残すための手段**です。

まずは「触ってみる」「使ってみる」ことから始め、小さな気づきと改善を積み重ねる。そのプロセスを通じて、現場が主役となる DX を実現していきます。

DX ビジョンと価値創造ストーリー

訓子府機械工業の DX ビジョンは、「**現場の知をデジタルで未来へつなぎ、地域と共に持続的な成長を実現する**」ことです。

現場で生まれる情報やデータをデジタルで蓄積・共有し、事業を横断して活用することで、判断のスピードと質を高めます。

農業機械、整備、燃料、工事といった複数事業が、データを通じてゆるやかにつながることで、より一体感のある価値提供が可能になります。

DX によって生まれる価値は、単なる業務効率化ではありません。お客様にとっては「状況を分かってくれている、相談しやすい会社」であること。社員にとっては「安心して働き、次の世代に技術と誇りを渡せる職場」であること。その両立を実現することが、私たちの価値創造ストーリーです。

DX 推進の発信とステークホルダー皆さまへのコミットメント

DX は、社内だけで完結するものではありません。

お客様、取引先、協力会社、地域社会との信頼関係の上に成り立つ取り組みです。

私たちは、DX の進捗や考え方を積極的に発信し、対話を重ねながら進めていきます。また、現場の声を起点とした改善を大切に
し、実利を伴う成果を一つひとつ積み上げることで、持続可能な DX を実践していくことをお約束します。

DX 推進と未来への展望

DX はゴールではなく、変化し続けるための土台です。

技術や社会環境が変わっても、訓子府機械工業が大切にしてきた「地域に寄り添う姿勢」「現場を尊重する文化」は変わりません。
人の技術とデジタルの力を融合させ、地域産業を支え続ける企業として、次の世代へと歩みを進めていきます。

変えるべきものは変え、守るべきものは守る。その覚悟をもって、DX に取り組んでいきます。